

## 心の栄養剤No136【降りていく生き方】

歌手でタレントの武田鉄矢さんが、ある新聞に「降りていく生き方」について寄稿されていましてのでご紹介しますね。

（前文省略）数年前に、僕は心臓病の手術をしました。看護師さんが優しくてね、女房もやってくれないようなことまでやってくれるんです。一番感動したのは、ICUにいた時に若い看護師さんが僕をお姫様抱っこしたんです。「病人もいいなあ」って思いました（笑）

入院中はお風呂に入れないので、女房に背中を洗ってもらっていたんですが、その時女房がこう言ったんですよ。「こういう日がいつか来ると思っていたわ」って。

僕たちが結婚したのは、女房が21歳で、僕が25歳の時でした。教会で牧師さんが「貧しい時も病気の時も、支え合うように」とか言いますよね。あの時、女房は決心したって言うんです。

**「いつかこの人は年を取ってヨボヨボになり、私がおしめを替える日があるだろう。その未来に向かって新婚生活を送っていくんだ」**って。ところが、面白いことに僕はまったく逆のことを結婚式の日を考えていたんですよ。女房は当時、すごく可愛かった。ピチピチのギャル。その時、僕は何を思ったかという、「この人は今が一番可愛い。でもこれから年を取るにつれ、おばさんになり、いつかヨボヨボになっていく。だから21歳の一番きれいなこの日の彼女をいつまでも覚えておこう」と。

僕はいつも過去を向きながら後ろ向きに歩いている。女房は僕が年を取ってヨボヨボになっている未来に向かって歩いている。面白いなあと思いましたね。

それで、女房が「あなたのおしめを替えるという目標に向かって私は歩いてきた」と言ったから、「そこにどんどん近づいてきたね」と僕が応えたら、女房は「うん、もうちょっとの辛抱だわ」と言ったんです（笑）。

心理学者のC・Gユングの言葉の中にこんなのがあつてます。**「登るということを完成させるためには、下いなければならない。『山に登ったという意味は、登って無事に下りてきた』**ということである。登ったまま下りてこない人を遭難者と言います。」（後文省略）

じつは、「降りていく生き方」という映画（武田さんが主演）が2009年に公開されていて、映画館で上映せずDVD化もせず全国各地で自主上映されています。何十万人も観ているそうです。その中で、武田さんはこう話しています。「**病気というのは、人生をゆっくり降りていくという生き方を教えてくれる役目もしてくれているんじゃないかなって**」

素晴らしすぎる武田鉄矢さんの奥様の愛情！！

私も妻に聞いてみたい気がします～なんという答えが返ってくるか怖くて聞けません(笑)

**登っていく人生、そして下っていく人生。**

いよいよ今年も残すところあと1ヶ月

**『皆様、お一人お一人この一年、上手に登れましたか？  
そして、上手に下れましたか？』**

こんなふうに考えると不思議と自分自身にも一年をともに過ごしてくれたすべての人に「ありがとうございます」と言いたい気分になります。

ところで、人は人生の中でどのくらいの人と出会うと思いますか？  
**人生80年生きるとして地球には72億人もの人がいることをふまえると**

- 何らかの接点を持つ人・・・30,000人  
出会う確率は1/240,000（24万分の1）
- 同じ学校や職場、近所の人・・・3,000人  
出会う確率は1/2,400,000（240万分の1）
- 親しく会話を持つ人・・・300人  
出会う確率は1/24,000,000（2400万分の1）
- 友人と呼べる人・・・30人  
出会う確率は1/240,000,000（2億4000万分の1）
- 親友と呼べる人・・・3人  
出会う確率は1/2,400,000,000（24億分の1）

**すべては奇跡～感謝！！**

